

4) 講演

住民とともに歩む保健師活動について

NPO 法人生き粋あさむし

事務局長 三上 公子

平成21年度保健師中央会議
於：厚生労働省(H21.7.23)

住民とともに歩む 保健師活動について

特定非営利活動法人生き粋あさむし
事務局長
三上公子

1984～1997(私の22歳～35歳)

- 市役所の保健師として就職、地区診断を行うこともなく、活動目標もない職場
 - － 先輩は疑問には答えてくれなかった
 - － それぞれの事業は淡々と進められていた
 - － 割り当てられたケースの追跡を後追いとする日々、歯車のひとつとして機械的に動く保健師
- 問題提起しても一緒に考えてくれる仲間がいなかった
- 現実逃避と転職を真剣に考えるようになる

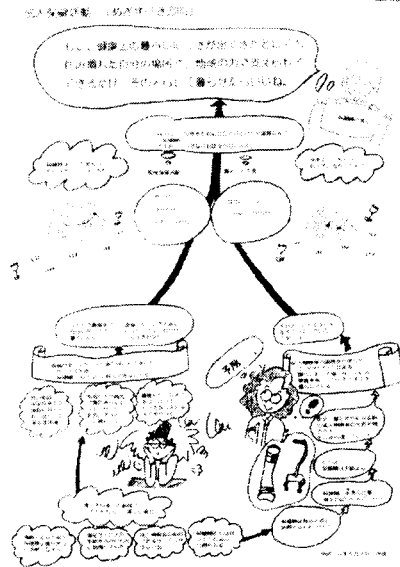
問題へ向かうために力をつけたい

- 卒後教育で保健師自主学習会に参加
 - －ヘルスプロモーションを学ぶ
 - －青森県内の先輩保健師とのネットワークができた
 - －全国研修会や学会へ先輩たちと参加
 - －先輩ネットワークで全国の研究者を知る
- 一般常識に欠けると思い通信教育で8年学ぶ
 - －分野に問わず本を読む習慣を持つことができた
 - －レポート作成で考えを文章にまとめるトレーニング
 - －粘り強さと集中力を身につけた

1997～1999 転機が訪れる

- 平成11年介護保険法施行
- 平成9年頃から成人保健の仕事の仕方についてチーム7名で話し合いが行われるようになった
 - －就職してから、はじめて真剣に保健師の働きについて話し合う場ができた
 - －チャンス到来！
 - －私は資料とネットワークを持っています！

目的の視覚化により共有へ



- チームで既存の事業を整理してまとめる
- 保健所保健婦課長からアドバイスを受ける
 - －目標の明確化が必要
 - －暮らしにくさをアセスメント
 - －モデル地区の設定について
 - －保健師の専門性、コア
 - －厚生労働省の事業を紹介してもらう

民間の関係機関へ相談

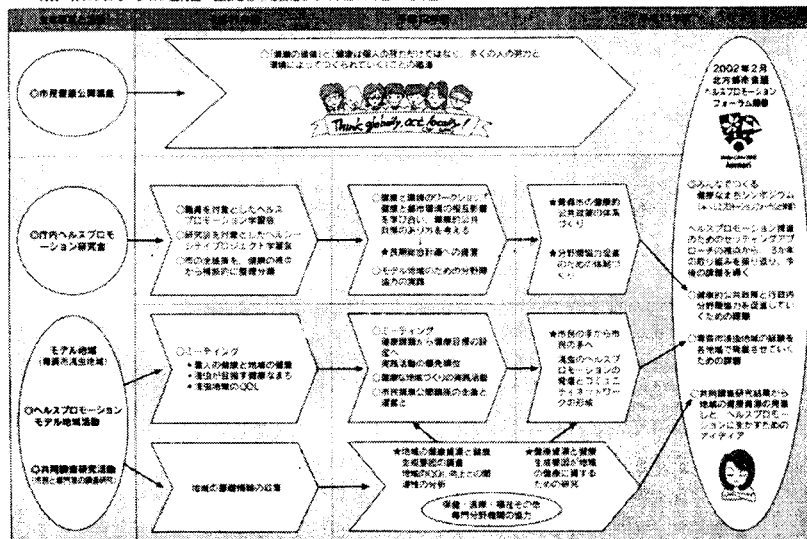
- 在宅介護支援センター
 - －地域福祉のコミュニティ活動と何が違うの？
 - －予防的視点とは何なのか？
 - －高齢者に活動の趣旨を理解してもらうのは難しい
- 個人だけでなく施設や団体へも地域を知るためのインタビューが必要だと認識
- 保健師による地域活動の歴史がないので、保健師の活動を理解してもらう必要がある

事業化に向けての手続き

- 課内の理解を得る
- 部長レベルの理解を得る
- 新規事業の根拠として何らかの計画にのっている事業である必要がある
- 計画への反映
- 庁舎内で推進体制を作る
- モデル地区町内会の理解を得る
- 事業へ協力してくれる団体や個人を募る

事業フローを図式化

高齢ヘルスポモーション実行図—健康な都市を目指して（平成11年度～13年度）



ヘルスプロモーションの実践による 保健活動への挑戦

- 10年以上の卒後教育やネットワークを生かして事業の構築
- 平成12年～ 3年間
厚生省地域保健推進特別事業により地域活動と政策形成の基盤を作る
- スーパーバイザーに
イローナキックブッシュ博士



初めての本格的な地区診断

- アセスメント(社会・疫学・環境・教育)と分析
- 地区診断は、数字と数字以外のものがある
- 数字をまとめた量的な分析
人口、年齢構成、産業構造
保健データの地区別集計 etc
- プラス質的な研究に基づいた人々の生活背景を知り、課題を導き出す
- 政策へ反映する基礎になる資料

人口 1800人
 高齢化率 35%
 単身高齢者 90名
 小学校児童数 70名

(平成12年国勢調査)

質的なアセスメント

エスノグラフィー
 家庭訪問
 グループインタビュー

図1. A地区の単身高齢者の健康を支えている要因 N=53

地域の人へ地区診断を提示



13

住民自身が課題解決へ

大 一 効果 一 小

簡単	<p>まちをきれいにする</p> <p>自然環境を自分たちの手で整える</p> <p>住民が主体的に活動を知る</p> <p>地域のよいところを紹介で伝える</p> <p>陸奥湾畔の環境</p> <p>奥山にある自然をPR</p> <p>ごみのないまち</p> <p>自然を次世代へ残していく</p> <p>子供たちとやる、学校とのつながり</p> <p>ワイワイ楽しいテーマを決めた活動</p> <p>(楽しい団体を作る)</p>	<p>伝統行事に若い人も参加</p> <p>伝統行事を観光客にも参加してもらおう</p> <p>駅前で年寄りが招きを出したりまちを誘う</p> <p>旅の人、他から来た人に積極的に声をかける</p> <p>高齢者が多いから高齢者が楽しく</p>
実践	<p>自然を利用した運動・森林ウォーキング</p> <p>自然の強を守っていく</p> <p>安心して遊べる場所が欲しい</p> <p>コミュニケーションの場が欲しい</p> <p>観光に従事している人が集まること</p> <p>若生のグラント</p> <p>お金がかからない遊歩道</p> <p>話したいことを伝える、討論をして壁を乗り越える</p> <p>時代にあった運動会の企画</p>	<p>まちが面白いので街灯を消やさず</p> <p>仕事があればいい</p> <p>若い人もいればいい</p> <p>若いものの方が強いというのにはダメ</p> <p>観光客にたくさん来てもらいたい</p>
困難	<p>他から来た人を受け入れる気持ち</p> <p>地元を案内するボランティア活動</p>	<p>②</p> <p>③</p>

優先順位 ①→② ③→④

2002.2.9 作成資料

14

やったことをまとめる

No	年 月	種別	内容	タイトル
1	1994 7/7	学士論文	論文	ヘルスプロモーションの分野間協力についての一考察
2	1997 7/7	第28回青森県看護学会	研究発表	エスノグラフィーから導きだされたA地区の単身高齢者の健康を支えている要因
3	1998 10/1	第21回全国地域保健婦科学術研究会	研究発表	3地区の単身高齢者の健康を支える要因から導きだされた健康課題
4	2000 9/9	第22回全国地域保健婦科学術研究会	研究発表	リポーターから評価した生活習慣病予防教室
5	2004 9/9	第22回全国地域保健婦科学術研究会	研究発表	保健婦自身のエンパワメント～青森県保健婦自主学習会Step1の活動から～
6	2004 9/9	第22回全国地域保健婦科学術研究会	研究発表	青森ヘルスプロモーションの分野間協力～庁舎内における保健部門からのアプローチ～
7	2008 10/1	第59回日本公衆衛生学会	研究発表	市職員がヘルスプロモーションへの政策関与を理解していくための課題
8	2008 10/1	第59回日本公衆衛生学会	研究発表	浅虫ヘルスプロモーションのエンパワメントを促進する保健婦の介入
9	2008 11/1	第4回チヨダ地域保健推進賞	受賞	保健婦のエンパワーをはくむ保健婦自主学習会Step1
10	2008 11/1	第3回青森県保健医療・福祉・環境研究会	研究発表	健康なまちづくり実践者たちのネットワーク化に向けて
11	2009 1/1	医学書院「保健婦雑誌」	論文	ヘルスプロモーションが政策の軸に据えられるまでの道のり
12	2009 3/3	日本管理協会	研究事業	地域をつなぐ「道の駅」を拠点とした「まちの保健室づくり」
13	2009 8/8	新企画出版	出版	あなたのまちの健康づくり～みんなで進める「健康日本21」～量旦二編著 青森市のヘルスプロモーション事例
14	2009 11/1	第60回日本公衆衛生学会	研究発表	青森ヘルスプロモーションの実践(1)
15	2009 11/1	第60回日本公衆衛生学会	研究発表	青森ヘルスプロモーションの実践(2)
16	2009 11/1	第23回全国地域保健婦科学術研究会	研究発表	市民主体の健康なまちづくりを広げるための全国ネットワーク
17	2009 11/1	青森県保健・医療・福祉研究会	研究発表	ヘルスプロモーションの実践から理論化をめざして～実践しなければわからなかったこと～
18	2009 11/1	青森県保健・医療・福祉研究会	研究発表	地方分権時代の効果的な保健婦活動のつくり方～都市部における保健婦自身が考えた保健婦活動リニューアル計画～
19	2009 12/2	大版大学医学部	講演	ヘルスプロモーションの実践について
20	2009 8/8	東北公衆衛生学会	研究発表	浅虫トレッキングコースの健康付加価値を高める研究
21	2009 8/8	医学書院「公衆衛生」	論文	青森ヘルスプロモーションの挑戦
22	2009 8/8	医学書院「保健婦雑誌」	論文	「健康なまちづくり」グループの歩み「みんなでつくる健康なまちシンポジウム」はこうして開催された

やり残したこと

- 行政の中にヘルスプロモーションを推進する連携チームを作ったが、具体的なしくみづくりにはつながらなかった(イローナキックブッシュ教授からも指摘された)
- 保健師の業務分担制と地区分担制の調整が現実的に困難だった
- 地域の変化を質的に評価する指標を作ることができなかった
- 量的評価もレセプトなどから見ることはできなかった

活動のステージが変わる

- NPO事務局として地域課題に向かう
- 医療法人理事として地域課題へ向かう
- 大学院で地域看護の学びなおし
- 株式会社を立ち上げ、NPOと医療法人ができない事業を実施
- 自治体の委員をつとめ市民として政策に関与

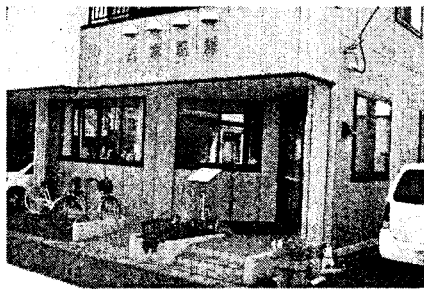
生き粋あさむしの活動

- 子育て支援(浅虫コミュニティスクール)
- 魅力的な小学校づくり(小学校の存続)
- 雇用の創出(浅めし食堂)
- 高齢者健康づくり支援(浅めし食堂)
- 自然環境の保護(ホテル事業)(いきいき農園)
- 食文化の伝承
- 健康サービスの開発(ヘルシーツアー)
- 食農体験教室
- ノウハウ移転

近年のNPO連携

- 単体の活動には限界があるため、NPO間連携や行政、企業との連携により地域課題を解決する方向に向かっている
- 地域資源を持ち寄り、地域課題を複数の視点で解決、具体的に地域を変える
- 経済的な自立が連携の前提条件である
- 自分たちの思いだけではなく、他者に理解してもらい能力が必要とされる(共感のネットワーク)

地域医療 石木医院



- 地域で唯一の内科・小児科・整形外科
- 入院設備を持ち、ターミナルケアも行う



介護事業

- 認知症グループホーム



医療施設門前町

- 生き粋あさむしの活動を産業医科大学公衆衛生学教室・松田晋也教授が、全国へ紹介（医療施設門前町という言葉を使っています）
- オランダの地方自治体の事業で高齢者が運営するコミュニティレストランがある
- 地域づくりに果たす医療の役割がある
 - －直接的な医療の他にWell beingへ寄与する活動
 - －地域における医療の信頼性を生かした活動

地域の活動の楽しさ

- スピーディーでタイムリーな事業の創出
- 自分たちで考えて新しい取り組みを作る
- 自分のコアに磨きをかける
- ソーシャルキャピタル醸成のプロセスを間近で見ることができる(又は失われるプロセスも)
- 他のNPOとより大きな地域課題に取り組む
- 生活に関する様々な課題を1つの事業で解決
- 共感ネットワークで支えられる

最後に「住民とともに」とは、

- 「住民の活動を支援」、「行政(専門職)の強いリーダーシップが必要な活動」の見極めが重要、決してみんなで仲良くではない
- 患者や対象者への関わりだけでなく、病院院長、社長さんや組織のリーダーへ働きかけて仕組みを変えていく仕事が必要
- 既存のダメダメ協働に見直しが必要

5)まとめ